



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



札幌部会(第24回)

日時: 2020年11月14日(土) 15:00 - 17:00

場所: ZoomによるWeb会議

参加者: 16名参加

【内容要旨】

- 川瀬先生(札幌市立北翔養護学校)から、北海道の7つの空港の民営化を巡る『投資計画』ゲーム教材開発の取組み③として、前々回の札幌部会(No.22)に引き続いて、教材開発の基本構想に関する報告が行われた。

まず篠原代表から大枠として、この教材を通して子供たちに何を教えるのか的を絞った方が良いとの指摘があった。例えば具体的に、①公共財を教える、②北海道の地域の経済を教える、では教材化のアプローチは変わるという指摘である。川瀬先生は②を視野に入れており、教材の具体化のため、実際に空港を民営化したケースや、その後の地域経済への影響について教えていただきたいとのことであった。このため、加藤一誠(慶應義塾大学)先生から、高松空港と仙台空港の先行事例や、道内7空港の国内線国際線の旅客数について、データを用いた解説と教材化への視点の置き方について助言がなされた。
- 山崎(北見北斗高校)より、北見でのNIEセミナー(道NIE推進協議会主催)で実践した「アイヌ民族の格差問題」の公開授業報告を行った。これまでの東京部会(No.116)と札幌部会(No.22)での議論を踏まえ、公開授業の構成は、関連する統計・データ、法律を読み解く活動や、アメリカCEE教材の「5つの役割」カードを用いた分配協議を取り入れた内容とした。

報告後、実際に授業を参観された兼間先生(札幌市立もみじ台中学校)から、パワーポイントを使って授業内容の分析と報告が行われた。また本日不在の新井先生から、事前のリアクションとして篠原先生に渡されていた内容について紹介があった。本実践の3つの柱(①NIE教材、②無知のヴェール、③アイヌ差別と現状)からすると、①他社のアイヌ奨学金の報道はどうだったのか、②最後の役割カードにフリーターや非正規雇用労働者も入れるとどうか、③授業翌日の「北海道新聞」全道版の記事で「(アイヌの現状を)ほとんど知らなかった」という生徒のコメントに驚きがあったと報告された。
- 藤倉先生(札幌清田高校)から、金融教育公開授業(知るぼると主催)で行った「現代の諸課題と倫理～『高校生と10万円』～」の公開授業報告が行われた。これは全5時間の単元構成のうち、1時間目にアリストテレスの正義論に即して定額給付金の是非を判断し、2時間目から4時間目にかけてコロナ禍の課題(定額給付金の意見を含む)についてタブレットを使ってグループで調べる活動を行い、5時間目にこの内容をプレゼンするというものであり、実際に公開されたのは5時間目の内容である。

質疑応答ではルーブリックに関することが中心となり、杉田先生(千葉県立津田沼高校)や松井先生(西九州大学)からは、ルーブリックで「公正に判断する・公正に判断できていない」ということを区分するのは難しいのではないかという指摘があった。
- 中沖氏(清水書院)から、前回の札幌部会(No.23)に引き続いて、新教材「金融クエスト」の作成と試行授業



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



への協力依頼が行われた。内容は教材に対する意見収集と、教材を用いた模擬授業の依頼であり、協力可能な場合は、清水書院中沖氏までメールをいただければとのことであった。

[文責:山崎辰也]

チェックボタン

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
--	-----------------------------	--	---	---

次回開催予定: 1月30日(土) 15:00~17:00

ZoomによるWeb会議

議題 北海道の地域教材、経済に関する授業案の交流など